

一般社団法人 日本呼吸療法医学会
2024 年度（第 47 期）第 2 回理事会 議事録

日 時：2024 年 11 月 29 日（金）18:00～19:30

形 式：Web 会議形式

出席者：竹内宗之（理事長）、内田寛治、大塚将秀、小倉崇以、倉橋清泰、
清水敬樹、中根正樹、吉田健史、
石井宣大、佐藤暢一、玉木 彰、松本幸枝（各理事）

欠席者：志馬伸朗、平井豊博（理事）、竹田晋浩、藤野裕士（監事）

（敬称略）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席が報告され開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会議事録の確認・承認（竹内理事長）

- ・前回理事会議事録は、原案どおり承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 0 件、連絡 1 件）の確認・承認（竹内理事長）

1) 第 49 回学術集会（2027 年）の運営事務局の選定について

- ・3 社に見積・提案を依頼し、コンベンションプラス社への委託決定が報告された。契約書を交わし以下の概要で計画を進める。

日 時：2027 年 7 月 3 日（土）・4 日（日）

会 場：ウインクあいち（愛知）

3. 理事長報告（竹内理事長）

1) 第 30 回日本臓器移植関連学会協議会出席報告

- ・前回の理事会で、本協議会は従来どおり理事長が担当することとしたが、今回については中根理事に代理出席をお願いし、以下の報告をいただいた。

「事前に配布された議事次第に則り進行し、予定時間を超過して終了した。

提供臓器の利用率が低いことがマスコミにより報道されたが、諸外国に比べると利用率は高く、移植後の成績はよいことが報告された。国内でドナーを増やすためには、ドナー提供病院のマンパワー不足解消を含めた体制強化、とそのための保険点数による支援などルール作りが必要となってくるであろう、としてまとめられた。

本会として具体的に参画していく状況ではないと思われた。」

2) 日本心肺補助学会認定医委員会への委員推薦の件

- ・日本心肺補助学会より、認定制度にかかる委員会を設置するにあたり関連学会として本会 ECMO プロジェクト委員の文屋尚史先生を推薦してほしい旨の依頼があった。本人の意向を確認し先方へ推薦した。

3) 印税収入の件

- ・『小児在宅人工呼吸療法マニュアル第2版』の印税として408,248円（税別）の収入があった。

4. 事務局からの報告（佐藤理事）

- ・2024年11月時点の会員数が以下のとおり報告された。
一般会員：1,850名（Dr 1,144、Ns 259、CE 316、PT 109、他 22）
賛助会員：14社／年間購読契約：8件
- ・会員動向は、医師が増加に転じ、看護師、臨床工学技士、理学療法士いずれも横ばいとなった。学術集会後に増加する傾向は例年の推移どおりである。
- ・一般会員の会費納入状況は、2023年度が91.9%、2024年度が73.6%である。

5. 学術集会報告、準備状況

1) 第46回学術集会（中根前会長）

2024年6月28日（金）・29日（土）天童ホテルほか（山形） 「標す」

- ・参加登録が、招待者101名を含め1,360名となったことが報告された。
- ・収支報告書を作成中であるが、収入7,540万円、支出6,500万円となり、約1,000万円の黒字となる見込みである。

2) 第47回学術集会（吉田会長）

2025年8月30日（土）・31日（日）グランキューブ大阪（大阪）

「挑戦、そしてその先へ—Beyond the CHALLENGE—」

- ・現在プログラムを検討中であり、先日各委員会宛に委員会企画の提出を依頼中。年内にはプログラムを決定する予定であることが報告された。共催セミナー（ランチョン）についてはすでに趣意書を各方面に提出済である。
- ・今回から前日の各種会合が開催されないため、会長招宴は行わない方針である。
- ・海外招聘は4名の演者をすでに内定している。

3) 第48回学術集会（平井副会長）

2026年7月4日（土）・5日（日）国立京都国際会館（京都）

4) 第49回学術集会（竹内副会長）

2027年7月3日（土）・4日（日）ウイंकあいち（愛知）

6. 事業報告

1) セミナー事業（大塚理事）

- ・医師向けセミナー第3回 **Refresher** コースの受講期間（11月1日～30日）が間もなく終了する。受講料は12,100円（税込）、受講者数は107名。
- ・人工呼吸ハンズオンセミナーin 鹿児島の詳細が以下のとおり決定した。

日 時：2025年1月11日（土）9:00～12:00

会 場：鹿児島大学病院 臨床研修センター

講 師：新旧セミナー委員8名（4ブース設置）

内 容：① 人工呼吸器のグラフィック（大村、櫻谷）

② 肺保護換気とは？ (小野寺、鎌田)

③ この自発呼吸は大丈夫？ (板垣、小山)

④ 最適な PEEP 設定 (方山、藤江)

受講生：1 ブースあたり最大 8 人。総数最大 32 名。多職種の参加予定。

謝 礼：50,000 円、旅費交通費 約 50,000 円 (主催団体負担)

2) 呼吸療法専門医 2024 年度〈更新・新規〉申請 (佐藤理事)

・ 8～9 月の 2 カ月間で更新 68 名 (対象 91)、新規 36 名からの申請を受理した。

・ 専門医委員会で書類審査を行い新規 36 名が受験する。12 月 7 日(土)11:30～13:00 に新大阪で実施。客観問題 50 問の出題とし、試験時間は 90 分とする。

7. その他、今後の理事会予定 (竹内理事長)

1) 2024 年度理事会日程

・ 第 3 回理事会 (Web 会議形式) 2/28(金) 18 時～19 時半

・ 第 4 回理事会 (Web 会議形式) 5/30(金) 18 時～19 時半

2) 定時社員総会 (Web 会議形式) 6/14(土) 午前

・ 総会の開催時間は 2 時間とし、開始時間は改めて決定する。

II. 委員会報告

7 月	19 日	18:00-18:50	チーム医療推進委員会
	30 日	18:00-19:00	会員システム導入検討会議
8 月	5 日	18:00-18:40	セミナー委員会
9 月	6 日	18:00-19:50	第 47 期第 1 回理事会
	10 日	18:00-18:20	社会保険委員会
	17 日	18:00-18:30	広報委員会
	20 日	18:00-18:30	チーム医療推進委員会
	24 日	18:00-19:50	編集委員会
10 月	9 日	18:00-19:00	専門医委員会
	16 日	17:30-18:00	セミナー委員会
11 月	15 日	18:00-18:50	チーム医療推進委員会
	25 日	10:00-10:30	学術研究推進委員会

・ 前回の理事会以降、上記のとおり委員会が開催されたことが報告された。

1. 社会保険委員会 (志馬委員長、代 竹内理事長)

1) 令和 8 年度診療報酬改定「提案意向調査」

「電気インピーダンス・トモグラフィ (EIT)」(大下慎一郎 先生)

・ ARDS 診療ガイドライン 2026 作成委員会から上記の提案があった。本ガイドラインは日本集中治療医学会、日本呼吸器学会、本会の 3 学会で作成しており、本案を 3

学会からの合同提案として進めることとした。

「CPAP 使用規定の改正、AHI 15 以上、簡易モニター30 以上」

「CPAP 電話指導に対する加算」

- ・日本呼吸器学会（陳 和夫先生）からの打診を受け、上記 2 案に共同提案学会として加わることとした。

2) 内科系学会社会保険連合リハビリテーション関連委員会

【第 1 回委員会（対面開催）】

日 時：2025 年 1 月 9 日（木）17:00～19:00

会 場：日本リハビリテーション医学会事務局（神田）

出 席：鶴澤吉宏委員（亀田総合病院）

【第 2 回委員会（Web 開催）】

日 時：2025 年 2 月 12 日（水）または 2 月 13 日（木）19:00～21:00（予定）

形 式：オンライン開催

出 席：鶴澤吉宏委員（亀田総合病院）、中西美貴委員（大阪大学）

- ・上記関連委員会の開催に際し、本委員会から上記の委員が出席予定である。

2. 学術研究推進委員会（吉田委員長）

- ・本会の承認研究に対し資金援助を学会として実施するか否かを委員会で審議した。
- ・すでに学会承認研究とされている 7 つの臨床研究も含め、公平を期すために資金援助にかかる公募を実施することとした。応募を受け付けて改めて審査を行う。
- ・金額は「1 口 10 万円、年間予算 100 万円」の内容で理事会に上申する。

3. 広報委員会（高木委員長・吉田理事）

1) 「他団体からのお知らせ」欄作成

- ・関連リンク集ページに他団体からのお知らせを掲載する欄を設置し、掲載申請書もあわせて添付した。（<https://square.umin.ac.jp/jrcm/contents/link.html>）

2) ホームページ・SNS 等の発信に関する細則

- ・情報発信に際する委員会内の細則を作成した。

3) ホームページ・ロゴ改修、ダグライン・ボディコピー作成

- ・広報委員会が設置され優先課題を検討した結果、ホームページの改修が挙げた。デザインや情報が最新であることは信頼性を高め、更新しやすい構造にすることで迅速な情報発信につながり、学術集会参加者増などに寄与すると考えられる。また、SNS と連携することで若い世代へのアプローチや会員増加も期待できる。動画やウェビナーの掲載など多様なデジタルコンテンツを活用し、本会の魅力を効果的に発信したい。
- ・上記にもとづき、ホームページ改修、ロゴ作成、ダグライン・ボディコピーの見積

もりを取り寄せた。これはあくまで予算規模を知っていただくためであり、とくにホームページはボリュームを調整することで価格も変動するため参考値でしかなく、ただちに決定・制作を進めるものではない。

Ⅲ. 審議事項

第1号議案 委員会人事（佐藤理事）

・以下の委員推薦が各委員会より上申され、承認された。

1) 編集委員会

・方山 真朱代議員 (Dr) を次期委員として推薦

2) セミナー委員会

・柳田 頼英代議員 (PT) を新任として推薦

3) 広報委員会

・大澤 拓会員 (Ns)、杉島 寛会員 (Ns)、
松本 慶太会員 (Dr) を新任として推薦

第2号議案 BMI over 35 呼吸管理委員会の新任委員の件（清水委員長）

・以下の委員推薦が清水委員長より上申され、承認された。

清水 敬樹 Dr 東京都立多摩総合医療センター救命救急センター（委員長）

緒方 嘉隆 Dr 八尾徳洲会総合病院 集中治療科

澤本 一翔 Ns 済生会加須 看護部 （入会中）

早川 桂 Dr 虎ノ門病院 集中治療科

文屋 尚史 Dr 札幌医科大学医学部 救急医学講座

松村 一希 Dr 慶應義塾大学医学部 救急医学教室

第3号議案 委員会分類の件（竹内理事長、大塚副理事長）

・前回の理事会で、委員会を常設と Ad hoc に分ける定款改訂案が承認されたことにもない、現時点で「用語集改訂委員会」「BMI over 35 呼吸管理委員会」を Ad hoc 委員会として分類することが承認された。

第4号議案 学術研究推進委員会の資金援助にかかる公募と年間予算の件（吉田委員長）

・これまで本委員会では学術研究の推進を目的とし、各種の臨床研究を学会として承認し大阪大学のデータ集積管理システム“REDCap”を利用できるよう取り計らってきた。一方、海外雑誌への投稿にともなう英文校正や投稿料などの費用支援につ

いては具体的に議論されていなかった。

- ・このたび、資金援助についての基準を委員会で議論され「公募制、1口10万円、年間予算100万円程度」とする内容が理事会に上申された。
- ・本案については学会の活動として相応しいこと、会員メリットとして入会の動機にもなること、公募制により公平性が担保されることなどから承認された。
- ・援助費の振り分けについては委員会審査の際にメディカルスタッフにも支援が行き届くよう配慮する提案があがった。

第5号議案 ホームページ・ロゴ・タグラインボディコピーの制作の件（吉田理事）

- ・広報委員会の新設にともない、本会の広報上の課題としてホームページ改修・ロゴ制作・タグラインコピーの作成が急務であるとの報告があった。それらにかかる費用はおおよそ300万円ほどであった。
- ・本会の会員数は10年前の2014年10月時点で2,200名であったがここ数年は1,900名前後で推移しておりとくに多職種会員の減少傾向が止まらない。
- ・ホームページは学会の顔でありそのデザインは信頼性や安心感を高めタグラインボディコピーは入会の動機に直結することが期待できる。学会として会員増に向けた施策に予算を割くことが重要であるとの認識が共有され、上記の予算規模で制作を進めることが承認された。広報委員会で具体案の検討を進めることとする。

第6号議案 会員管理システム導入の件（竹内理事長）

- ・日本集中治療医学会で導入された会員管理システムを、集中治療医学会からの許諾を得て導入する案を検討してきたが、説明会を経て最終見積が届いた。

●初期構築費 7,226,604円（税込）

初期構築費 4,115,760円

データ移行費 2,013,440円

マニュアル作成費 440,440円

●年間運用費 4,275,022円（税込）

月間運用費 12× 339,453円

（AWSサーバー利用料、保守費用、システム保守費用）

ドメイン等 201,586円

（ドメイン費用、セキュリティソフト更新費用）

- ・検討材料として、2023年度決算の状況が示された。

①本体単年度収支： 11,002,433円 黒字

当期収入 32,185,890円（学術集会除く）

当期支出 23,158,378円（学術集会除く）

②本体預金残高： 125,501,611 円 (UFJ・ゆうちょ・りそな・三井住友)

③実質年会費収入： 14,182,000 円 (実際に納入があった額)

- ・上記の年間運用費について他学会との比較調査を行った。年間運用費の会員 1 人当たりの負担額は本会が 2,287 円・A 学会 1,588 円・B 学会 575 円、年会費収入に対する年間運用費の割合は本会が 30.3%・A 学会 12.3%・B 学会 4.8%であった。
- ・総じて、本システムの導入は会員一人当たりの負担が大きく、その一方会員のメリットとくに多職種会員が得られる恩恵に乏しく賛同を得るのは難しいとの意見が大半を占めた。前号の審議のとおり会員増に向けた取り組みが喫緊の課題であり、本案については見送ることとなった。
- ・会員管理の業務上の課題については事務局や各委員会が必要とするシステムを精査し身の丈に合った予算規模で代替案の実施・解決を目指す。

IV. 2024 年度中間会計報告 2024 年 4 月 1 日～2024 年 11 月 29 日 (佐藤理事)

【収入の部】

1) 会費収入

- ・医師 843 名、多職種 528 名、合計 1,371 名分の会費収入を計上。2024 年 10 月末時点で納入率が 73.6%となっており、会費収入も予算に対してほぼ同じ割合となっている。賛助会費があと 1 社待ちである。

2) セミナー等事業収入

- ・7 月開催の第 53 回セミナーの参加費のみ計上。11 月の Refresher コース、3 月の Basic コースは期末に計上予定である。

3) 専門医認定事業収入

- ・専門医：更新審査料 68 万円 (68 名)、審査料 (新規) 37 万円 (37 名)。登録料は暫定専門医 1 名分を計上。
- ・研修施設：更新審査料 16 万円 (8 施設)、審査料 (新規) 22 万円 (11 施設)、登録料 20 万円 (10 施設)。

4) 広告収入

- ・ユーザーレポートは 1 号が 2 社、2 号が 1 社掲載となった。

5) 機関誌販売等収入

- ・1 号の講座記事とユーザーレポートにコヴィディエン社から別刷の注文が入った。

6) 書籍販売等収入

- ・小児在宅第 2 版、49 万円の印税収入あり。

【支出の部】

1) 機関誌

- ・1 号、2 号、いずれも内定した額を計上した。

2) セミナー

- ・医師向けセミナーは 11 月と 3 月の支出を期末に計上予定。

3) 委員会

- ・編集委員会は例年の論文賞副賞代（20 万）に機関誌のデザイン変更料を追加計上。

4) 専門医等運営費

- ・呼吸療法専門医テキスト 2024 の編集・校正費を計上。あと筆記試験会場、試験監督旅費、マークシート代などを計上予定。

5) 社員総会費

- ・天童での総会会場費が請求される見込み。

6) 事務局委託費

- ・年度末に時間外分の請求が追加で計上される予定。

7) 支払報酬・法人税

- ・会計士への報酬、法人税を計上済。